

授業科目	*比較文化論					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	必修	開講年次	1	開講時期	前期
担当教員	神崎 明坤						
授業概要	世界の国々（主としてアジア）と日本の文化について、毎回一つのトピックに絞って語りながら比較をしていく。それぞれの文化にはそれぞれの長い歴史や置かれた環境の影響等があるため、本授業は各文化の特徴を学んでいくことである。						
授業形態	対面授業			授業方法	講義と学生のプレゼンテーション		

## 学生が達成すべき行動目標

標準的レベル	様々な国の文化を同時に学ぶことを通して、日本と他の国の文化の相違を理解でき、多文化が共生できる社会を構築するにはどのような心構えが必要であるか、学生本人には何ができるのかを磨きながら知ることである。
理想的レベル	日本と他の国文化の相違及び生まれた背景を理解できる。

## 評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	100%	
小テスト	0	
レポート	0	
発表（口頭、プレゼンテーション）	0	
レポート外の提出物	0	
その他	0	

## カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1	○	DP2	-	DP3	-	DP4	-	ナンバリング	T011301J
学習課題（予習・復習）								1回の目安時間（時間）	
予習復習								4	

## 授業計画

第1回	授業の概要の説明及び注意事項
第2回	地理的視点での文化比較
第3回	歴史、政治及び経済の学習
第4回	宗教及び人々の日常生活。
第5回	思想（儒教、道教、仏教、神道、）について
第6回	日本人と中国人のものの考え方に関する相違
第7回	衣食住
第8回	年中行事
第9回	お茶の文化
第10回	若者の価値観及び文化
第11回	文学と言葉
第12回	教育
第13回	異文化に関する発表（プレゼンテーション）

第14回	映画の鑑賞
第15回	纏め試験
テキスト	サミュエル・ハンチントン『文明の衝突』集英社 尾形勇、上田信『中国の歴史』12巻 講談社 近藤治『アジアの歴史と文化』同朋舎
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	黒住真等『日本の思想』岩波書店
課題に対するフィードバックの方針	学内外の国籍が異なる人々となるべく多く会話をする機会を設ける。授業では国際的な視点での多文化共生を学ぶため、授業で学んだことを日常生活で生かしてほしい。まずは身近に接する（特に自分とは異なる）人たちと共生することを意識してください。
学生へのメッセージ・コメント	小テスト、発表、レポート、定期試験等を実施する。15回目の授業中に定期試験を実施する。授業中では、受講生の発言を求める機会を多く設け、多文化共生には「声を上げること」も重要な要素であり、積極的な参加を期待する。